

1. 調査の概要

(1) 調査形態

調査時期：平成30年5月22日（火）～6月3日（日）まで

調査方法：インターネット（アンケート専用フォームへの入力）による回答

いばらきネットモニター数：378名（県内外在住者）

回収率51.6%（回収数195名）

回答者の属性（百分率表示は小数点以下第二位を四捨五入しているため、個々の比率の合計は100%にならない場合がある）

		人数(人)	比率(%)
全体(n)		195	100
地域別	県北	18	9.2
	県央	68	34.9
	鹿行	9	4.6
	県南	60	30.8
	県西	18	9.2
	県外	22	11.3
性別	男性	106	54.4
	女性	89	45.6
年齢別	16～19歳	0	0.0
	20～29歳	6	3.1
	30～39歳	38	19.5
	40～49歳	38	19.5
	50～59歳	51	26.2
	60～69歳	32	16.4
	70歳以上	30	15.4
職業別	自営業	11	5.6
	会社員	69	35.4
	団体職員	5	2.6
	公務員	4	2.1
	主婦・主夫	50	25.6
	学生	3	1.5
	無職	38	19.5
	その他	15	7.7

(2) 調査目的

ミュージアムパーク茨城県自然博物館の利用状況を調査し、博物館に対する展示等のニ

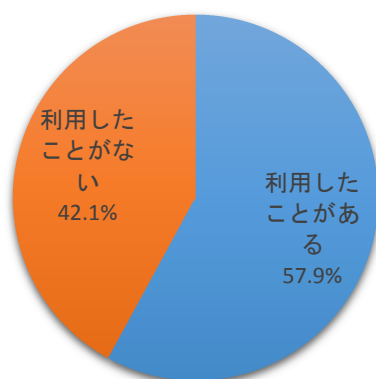
ーズを把握することを目的とします。

担当課 茨城県教育庁総務企画部文化課

電話：029-301-5445 E-mail：geibun@pref.ibaraki.lg.jp

2. 調査結果の概要と考察

【問1】 これまでにミュージアムパーク茨城県自然博物館（以下自然博物館）に行ったことがありますか。



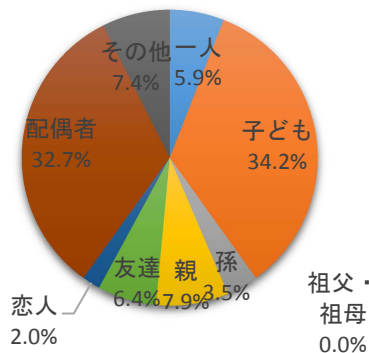
○「利用したことがある」(57.9%)との回答が半数以上で、「利用したことがない」(42.1%)よりも多かった。

	回答者数	利用したことがある(人)	比率(%)
県南	60	48	80.0%
県西	18	12	66.7%
県央	68	38	55.9%
県北	18	8	44.4%
鹿行	9	3	33.3%
県外	22	4	18.2%

○このうち各地域別の回答者内で比較してみると「利用したことがある」と回答した割合は、「県南」(80.0%)が最も多く、「県西」(66.7%)、「県央」(55.9%)、「県北」(44.4%)、「鹿行」(33.3%)となり、「県外」(18.2%)が最も少なかった。博物館からの距離が近い、「県南」や「県西」だけでなく、やや距離がある「県央」からも一定数の来館者がみられる。

このことから、利用者を増やすためには距離的に近い県西地区と、高速道路を利用して来館が可能な県央地区、県外への広報活動が重要になると考えられる。

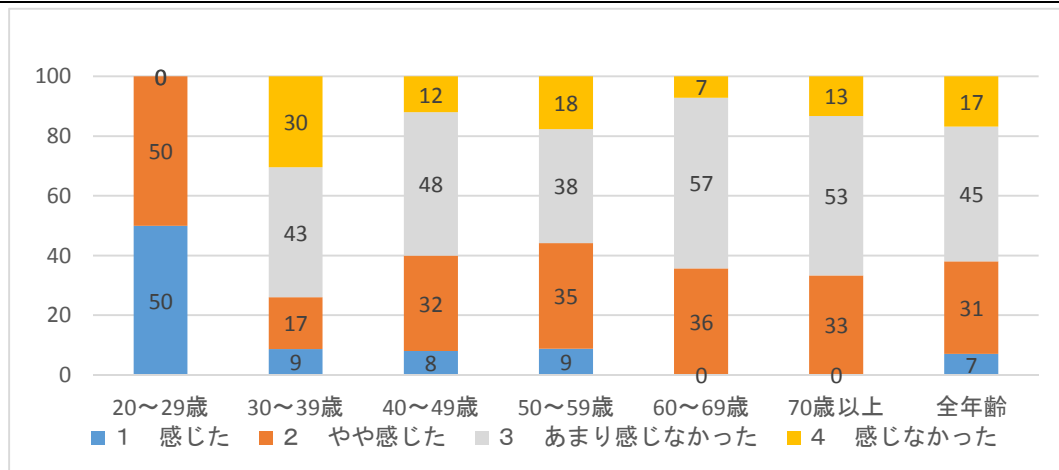
【問2】 自然博物館へはどなたと行きましたか（複数回答可）。



○来館時の同行者として「子ども」（34.2%）と「配偶者」（32.7%）が特に多く、次いで「親」（7.9%）と「友達」（6.4%）が多かった。これは、「子ども」「配偶者」「親」などの家族連れでの利用が多いためと考えられる。また、「友達」との回答は「学校遠足」などでの利用があるためと考えられる。

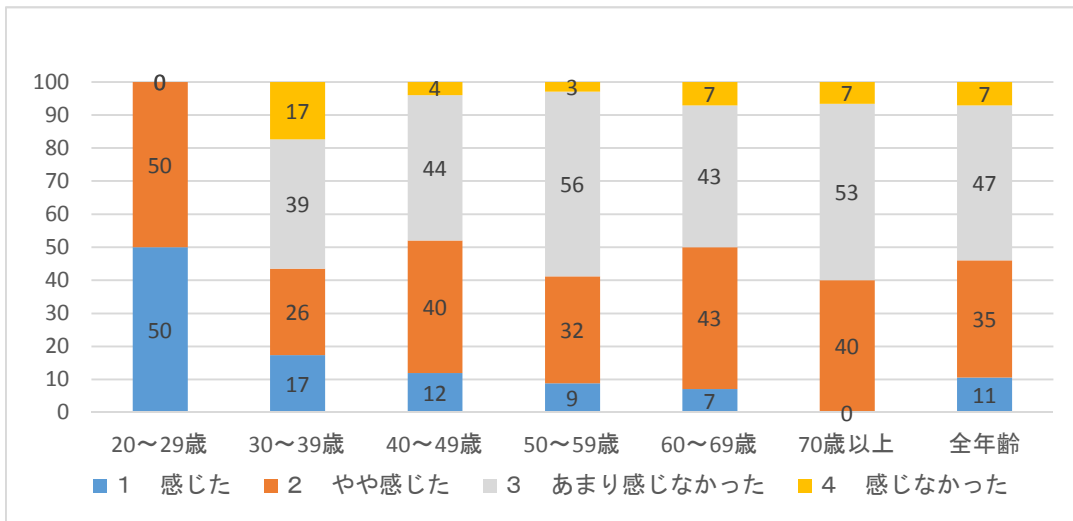
このことから、当館の展示内容やイベントなどは、親子向け家族向けが高評価を得やすいと考えられる。しかし、来館者を増やすためには、家族で来館した子どもが成長して成人となったときに再び利用したいと感じるような企画や大人が利用したいと感じるような展示構成を検討しなければならないと思われる。

【問3】 展示内容の情報に古さを感じましたか。



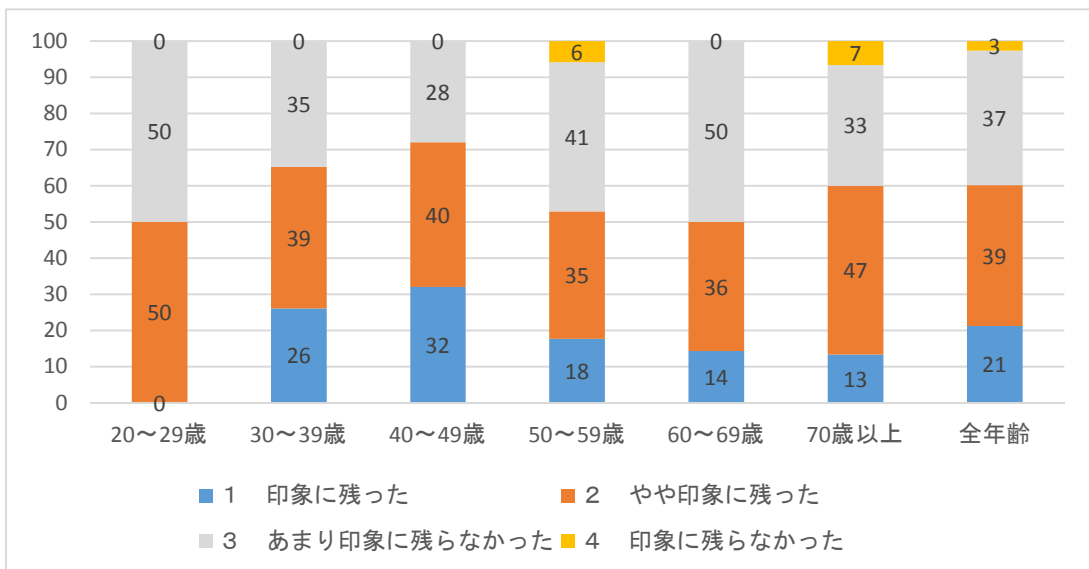
○展示内容の情報に古さを「感じた」（7.1%）と「やや感じた」（31.0%）を合わせて、約4割の人が古さを感じているという結果となった。年代別に比較してみると、20代では、アンケート回答者全員が古さを感じているが、30代以上はあまり古さを感じていない傾向がある。このことから、20代の来館者は、自分の持っている知識と展示内容に違いを感じていると考えられる。また、30代以上の来館者は実際には古い情報であっても、新しい情報として受け取ってしまっている可能性がある。

【問4】 映像や機器が老朽化していると感じましたか。



○映像や機器の老朽化を「感じた」（10.6%）と「やや感じた」（35.4%）を合わせて、半数程度となった。年代別に比較してみると、20代は回答者全員が古さを感じており、30代以上も古さを感じる人の割合が多い。画像映像資料は、旧型の機器が多いため、解像度が低いものは古く感じられると考えられる。スマートフォンなどのデジタル機器を頻繁に利用する世代だけでなく、映像の古さが印象に残っていることが明らかになった。

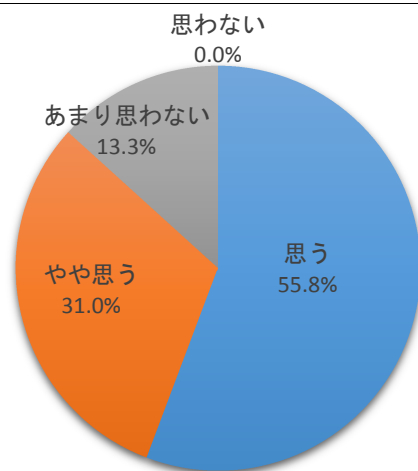
【問5】 館内の展示物を見て茨城県の自然の豊かさが印象に残りましたか。



○「印象に残った」（21.2%）と「やや印象に残った」（38.9%）を合わせて半数を上回った。ただし「印象に残らなかった」（2.7%）と「あまり印象に残らなかった」（37.2%）を合わせると半数に近いことから、現状の展示が茨城の自然の豊かさを十分に印象づけられているとはいえない。年代別の集計結果でも同様のことがいえる。

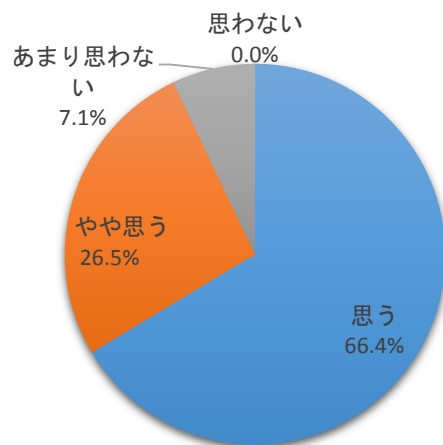
茨城の自然の魅力アピールできる展示を構成することは、本県の魅力度を上げることにつながる可能性があると思われる。

【問6】 自然博物館が新しく収集した資料（動物・植物・岩石・鉱物・地学標本など）を見てみたいと思いますか。



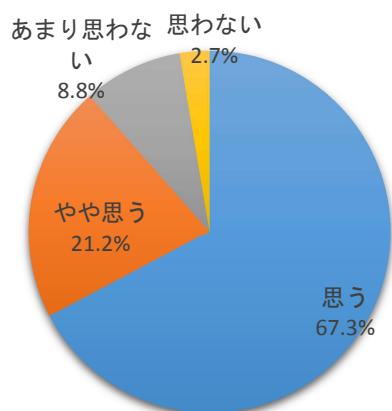
○「思う」（55.8%）が最も多く、「やや思う」（31.0%）と合わせて、80%以上となった。多くの人が収蔵資料を見てみたいと感じている。

【問7】 親子や家族で楽しく学び合える展示があるとよいと思いますか。



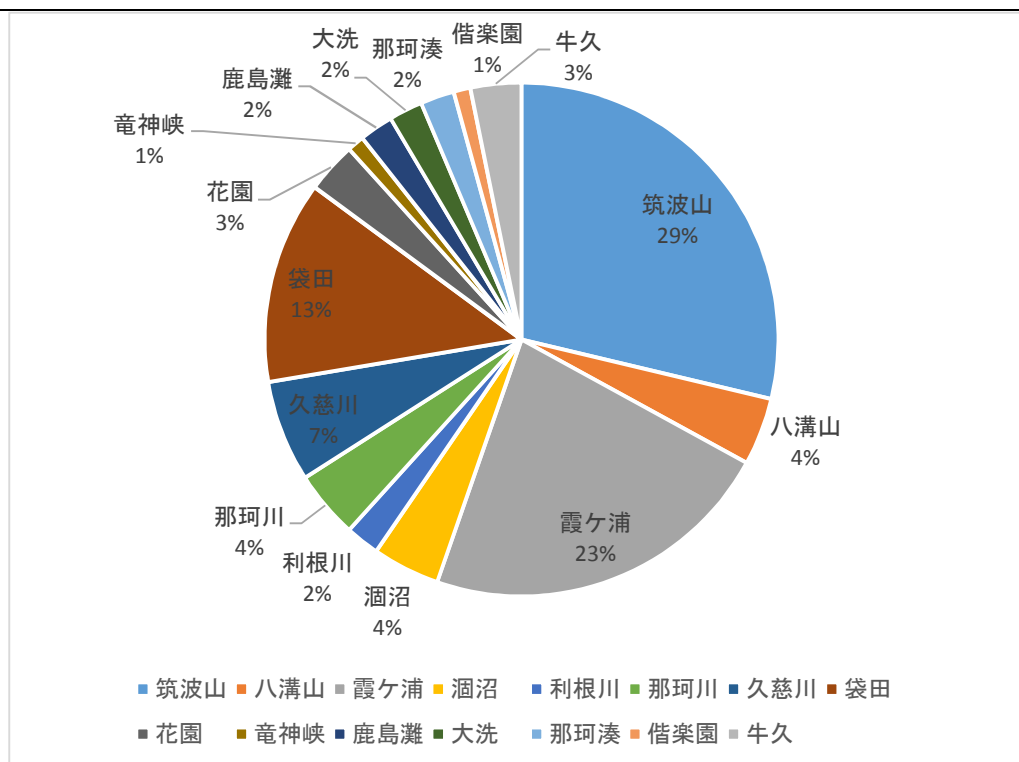
○「思う」（66.4%）が最も多く、「やや思う」（26.5%）と合わせて、90%以上となった。家族づれの来館者が多いことから、親子や家族で楽しく学び合える展示のニーズは特に高いと考えられる。

【問 8】 標本と最新のコンピューター技術を組み合わせた展示があるとよいと思いますか。



○「思う」（67.3%）が最も多く、「やや思う」（21.2%）と合わせて、80%以上となった。多くの人が最新のコンピューター技術を組み合わせた展示に興味を持っている。

【問 9】 茨城県の自然の魅力にはどのようなものがあると思いますか（自由記述）。

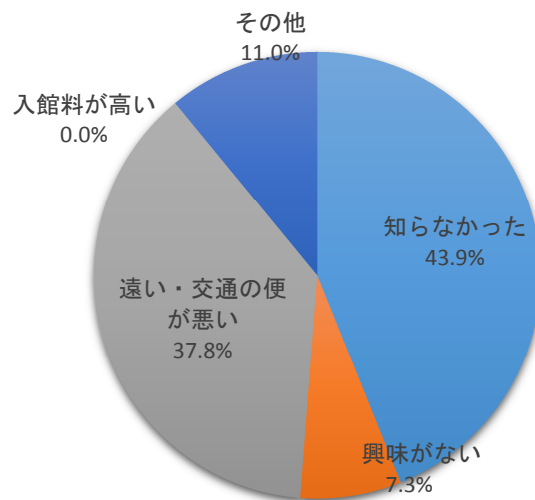


「山・海・川・湖などの豊かで多様な自然」を挙げる人が多かった。具体的には、筑波山・牛久沼・霞ヶ浦・潤沼・大洗・那珂湊・奥久慈・花貫・花園・袋田の滝などのさまざまな景勝地が挙げられた。「庭園・公園」といった管理された自然よりも、「手つかずの状態に残された自然」に魅力を感じている人が多かった。そこに生息・生育する「動植物の多様性」も魅力として挙げられた。そのほか、「田畑などの農耕地」、野菜や果物や海の幸などの「農産物・海産物」も挙げられた。

【問10】 茨城県の自然以外の魅力にはどのようなものがあると思いますか（自由記述）。

○「わからない」「特にない」という回答も一定数みられたが、水戸市内を中心とした歴史的建造物、偕楽園、鹿島神宮、笠間焼、結城紬などの「歴史・文化・芸術」に関する魅力、筑波学園都市を中心とした最先端の「産業・科学技術」に関する魅力、茨城空港や交通網など「交通・インフラ」に関する魅力、美術館、博物館、ひたちなか海浜公園、花火大会などの「観光地・イベント」に関する魅力、豊富な農産物や新鮮な魚介類などの「食べ物」に関する魅力など多岐にわたった。

【問11】 自然博物館に行ったことがないのはなぜですか（複数回答可）。



○「知らなかった」（43.9%）が最も多く、次いで「遠い・交通の便が悪い」（37.8%）となった。「入館料が高い」という回答者はいなかった。博物館の宣伝や交通機関の整備を行うことで、さらなる来館者の増加が期待できる。